

3議席に前進しました

4月26日の鈴鹿市議選挙で、私は2395票を得て8回目の当選となりました。日本共産党としては、森川ヤスエ議員も6回目の当選、そして新人の橋詰圭一さんが初当選、16年ぶりの3人の議員団となりました。

定数32を38人が争うきびしい選挙戦でしたが、多くの市民の皆さんのご支持をいただき、念願の3議席を獲得できたことは、何よりうれしい結果でした。



市議会本会議場、共産党市議団の議席は中央後列27～29番

正式会派となり、議会運営委員会にも参加

5月14～15日に臨時市議会が開かれて、議長をはじめとする各役職が決まりました。日本共産党市議団の役職分担は、以下のとおりです。

石田秀三 総務常任委員・鈴鹿亀山広域連合議会議員
森川ヤスエ 教育環境常任委員・国保運営協議会委員
橋詰圭一 生活福祉常任委員

また全員が、予算決算常任委員会に所属。会派を代表して石田が、議会運営委員会に入りました。

市庁舎13階の日本共産党議員控室には、デスクが一つ増えて少しせまくなりました。6月1日に始まる市議会定例会から、本格的なスタートとなります。選挙で訴えた公約の実現めざして、市議団一丸となってがんばります。

得票数・率とも前進、日本共産党

	今回（15年）	前回（11年）	増 減
得票数 石田 秀三	2,395	3,027	-632
森川ヤスエ	2,143	2,451	-308
橋詰 圭一	1,755	-	+1,755
合 計	6,293	5,478	+815
得 票 率	7.5%	6.2%	+1.3%

今回の選挙結果は、得票数では過去最高（1995年、6,766票）には及びませんでしたが、得票率では歴代最高となりました。投票率が54%に低下する中で健闘した、ということが出来ます。

3人目の橋詰さんが決まってスタートしたのが1月末と、たいへん出遅れた選挙戦でしたが、「こんどこそ3議席に」を合言葉に、党と後援会、支持者の皆さんが全力を出して押し上げていただきました。また、今年から中学校給食が始まったことなど、共産党市議団の活動、実績への評価も、力になりました。



開票日、3人当選を喜び合う

日本共産党への期待、共感の高まりを実感

選挙後に市民の皆さんからかけられる声も、「3人になったね」「やったね、3議席」など、共産党が伸びてよかったという感想ばかりです。2000年代の「自民か民主か」「2大政党」、さらに「第3極」の大キャンペーンの下で、共産党にとって厳しい時期が続きましたが、一昨年の参院選、昨年末の衆院選での躍進、そして今回の地方選でも大きく前進することができました。これは、今の政治があまりにもひどすぎること、庶民の暮らしが大変なこと、「もう頼りは共産党しかない!」との期待と願いの反映だと受け止めています。その皆さんの期待にこたえて、頑張ろうと思います。

安倍政権の暴走ストップ！ 戦争法案はぜったい許さない！

安倍内閣が国会に提出した「戦争法案」に反対して、共産党鈴鹿市委員会は15日、18日と街頭からの訴えを行ないました。3人の市議団を先頭に、多



街頭から市民にアピール（岡田町・15日）

くの党後援会員の皆さんが参加して、大きな「戦争する国いやだ」プラカードを持って、駅前、目抜き通りで、ショッピングセンターで、市民にアピールしました。これからも、どんどん行います。

安倍首相は、この悪法を「平和安全法制」と名づけていますが、看板に偽りあり。中身は「海外で

戦争できる国づくり」法案そのものです。

私たちも参加している「9条の会」などの市民団体も、宣伝や学習会、市民集会などをすすめています。幅広い市民の共同の力で、稀代の悪法「戦争法」をかならず廃案にしましょう。

「大阪市」解体を阻止した住民投票

17日の大阪市での住民投票の結果を、ハラハラしながら見ていました。夜中にやっと、僅差で「反対多数」と決まり、やれやれと安堵しました。橋下市長の「大阪都構想」なるペテンを見破り、これをはね退けて「大阪市」を守ったことは、歴史的快挙です。

12年前に、同じような経験をしたことを思い出します。四日市と「大合併」をして「鈴鹿市」をなくすという案に反対して、市議会でこれを否決したことです。「賛成」12、「反対」18でしたが、あと3人が賛成に回ったら同数、議長が賛成して可決されるという、きわどい結果でした。

当時は日本中を「合併」旋風が吹き荒れて、「合併は時代の流れ」「バスに乗り遅れるな」の大合唱でした。鈴鹿市にも総務大臣まで乗り込んできて、バラ色の話をふりまきましたが、私たちは必死で、数字や事実をもとに反撃し、反対派の結束をはかり、「鈴鹿市」を守ったのです。同様に今回、歴史ある大都市・大阪の解体を許さなかった大阪市民に、拍手を送ります。

ずいそう



やっぱり鈴鹿の山がいい!

きびしかった市議選挙も良い結果に終わることができ、ほっとして5月の連休を迎えた。正月から休みなしに突っ走ってきた疲れを癒そうと、妻とともに山登りに出かけた。

第1回目は体力回復と足慣らしに、東海道坂下宿から自然歩道を鈴鹿峠まで歩いて往復。第2回目は、年金者組合の皆さんと、御池岳(1247m)へ。鞍掛峠から霧の中をスタート、道中にカタクリの花を見ながら鈴北岳に上がると、霧が晴れて見晴らしもよし。なだらかな草原を歩いて御池岳頂上、奥の平、ボタンブチの断崖を覗いて戻る。



入道ヶ岳頂上で孫たちと

第3回目は、地元の入道ヶ岳(906m)へ、小学生の孫3人を連れて登る。椿神社の奥から北尾根コースを、満開のアセビの群落をくぐり、3時間かけて頂上に立つ。眼下に広がる鈴鹿の町をながめ、わが家や学校はどこか探したりして楽しむ。下りは井戸谷コースを滑ったり転んだり、ズボンの尻を泥だらけ

にしながら1時間半で椿神社に帰る。子どもたちも、いつも見上げている山のとっぺんまで、自分の足で登れたことに満足しているようだった。口では「もう行かん」と言っているが、また連れ出してやろう。

鈴鹿の山は、北から南まで変化に富み、山ごとに特徴がちがい、咲く花も様々である。名古屋や大阪方面からの来訪者も多い。麓に住んでいる者としては、目の前にある大自然にいつでも触れることが出来る「地の利」を、もっと活用しなければと思う。また、地元のもう一つの利点は、朝起きて山をながめて天気を見てから、「よし行こう」と決められることである。

夏場は蒸し暑くて、ヒルに食われたりするので敬遠されるが、それ以外の春、秋、初冬の鈴鹿の山は、季節ごとに魅力いっぱいである。これからも、暇を見つけては出かけていこうと思う。山を歩いて心と体のリフレッシュ、皆さんもごいっしょにどうですか?